



経営者・従業員の為の

# 健康ひとくちメモ



(公財) 福井県健康管理協会 診療放射線技師 吉田 裕子

## 胃がん検診について

～バリウム検査と胃カメラ検査、どっちを受ける？～

胃がん検診には、主にバリウム検査（胃透視検査）と胃カメラ検査（胃内視鏡検査）があります。十年程前にはバリウム検査が主流でしたが、胃カメラの普及に伴い、最近では、どちらかを選択できるようになっています。

### 胃カメラ検査

胃カメラ検査は、先端にカメラのついたスコープを口や鼻から挿入して、喉頭、食道、胃、十二指腸へと進め、実際の胃の内部を観察しながら病気の有無をチェックする検査です。バリウム検査は、発泡剤で胃を膨らませ、バリウムを飲んで検査台で体を回転させ、レントゲン透視下でバリウムの流れやバリウムの付着を見て胃壁の病気がないかチェックする検査です。

胃カメラは胃の内部表面を詳しく見る検査、バリウム検査は胃の内部表面と胃の外の情報も見ることが出来る検査です。それぞれに長所・短所があります。胃カメラは粘膜の状態を詳しく

見るのに有用で、確定診断や治療にも使えますが、検査に苦痛を伴う場合があります。

### バリウム検査

一方で、バリウム検査は、バリウムの流れを観察でき、胃の全体の形が分かります。検査に伴う苦痛が少ないという利点がありますが、被ばくを伴い、バリウムが体内で固まり便秘で辛い思いをすることもあります。どちらの検査も胃がんの早期発見が目的で行われます。胃がんにも様々なタイプがあり、複数のタイプの胃がんを見つけるには、粘膜に強い胃カメラと、胃の形全体に強いバリウム検査を組み合わせたことが良いとされています。つまり、健康診断として定期的に受けられるのであれば、胃カメラ検査とバリウム検査、交互に受けられることをお勧めします。



	バリウム検査	胃カメラ
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>胃の全体の形を見ることができる。</li> <li>バリウムが流れていく様子を見ることができる。</li> <li>飲む負担が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小さな病変が見つけれられる。</li> <li>胃粘膜の色の変化を見ることができる。</li> <li>組織を取って、精査ができる。</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>異常が見つかった場合、後日胃カメラを受けなくては行けない。</li> <li>バリウムで便秘になることがある。</li> <li>放射線被ばくがある。</li> <li>発泡剤、バリウムを飲むのが苦手な人がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カメラを飲み込むのが苦手な人がいる。</li> <li>麻酔でアレルギーを起こす人がいる。</li> </ul>